

時事新報定額
時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價選
送料廣告料ハ左ノ如ク

Table with subscription rates: 五號字ニテ... 一行二行... 一行三行... 一行四行... 一行五行... 一行六行... 一行七行... 一行八行... 一行九行... 一行十行... 一行十一行... 一行十二行... 一行十三行... 一行十四行... 一行十五行... 一行十六行... 一行十七行... 一行十八行... 一行十九行... 一行二十行...

時事新報

地方制度の改正

近來世上の風説に據れば我政府にてい急々地方の自治
を實行する事に決し兼て編纂中なりし市町村の制度の
此程、脱稿を告げ既に元老院の議を經過して今回召集
したる地方官會議にも諮問演説となりたれば多少修正の
上、日ならずして發布あるべしとの事なり固より世上
に傳ふる所のもにては其細目の如何も詳かならず好
又多少開得たる處ありとするも之を今日に公けにする
は我輩の敢てせざる所なれども兎に角に從來中央干渉
の政略を改め市町村内の事に至ては専ら其自治に任せ
んとするの大趣意なるが如しと云へり抑も維新以來地
方政治の變革一ならずしと雖も其始めに當りては重
きに封建の舊習を破り民心として新に向はしむるの注
義なりしが故に其勢の向ふ所、數十年來人民が其便
益に頼りたる流風遺俗も一切ふれ破棄して遠慮せず
或は曲を矯めて直に過ぎたるやの觀さきにもあらざり
しと雖も之も大變革の際に止むべからざる處置にし
て敢て尤むべからざるのみならず實際に於ては其効も
少なからざりし事ならん然るに其後地方の事は遂に
其緒に就き制度も次第に整頓して府縣會の開設もあり
近來は益々其面目一新したる處に來る二十三年に
は急々國會も開くの運びなれば地方の事は之を其人民
の自治に任して先づ政權の本なる私權を鞏固になし兼
て中央政府が干渉の手段と費用とを省くの意ならん、
事の順序に於ては斯くあるべき等にして法の精神は我
輩の贊成して措く能はざる所のものなりと雖も凡そ世
の成法の稱して完美と云ふものは法の自身に完美の體
と備ふるにあらざりしてその能く時勢民情に適應し實際
に行はれて不都合なく名實ともを併し舉るもの云ふ
なり實際に於て時勢民情に適せずんば法の表面は如何
に立派なりとも之を稱して完美あるも何と云ふべから
ざる也新以來政治上の進歩は非常に著しく國會はへも
二十三年中に續け行く始末なれば今の内より人民に自治
を許して先づ其私權の鞏固を謀るは事の順序にして我
輩も尤も賛成する所なし而も實際に行はれて其結果、
是も可なりとあらば國の爲り民の爲り此上なき美事
なりと雖も愛に熱らく、事の實際と兼じて不安心に堪
へざるは或程二十年來日本の進歩は實に驚くべしと雖
も其の進歩するものは重んじ政治改革の事にして
之を急ぐ者中、中等社會以上を止す
と云ふものも、其の進歩するものは重んじ
と云ふものも、其の進歩するものは重んじ
と云ふものも、其の進歩するものは重んじ

官報

○傳染馬病 茨城縣馬の皮疽病は去月八日より同二十
三日まで鹿嶋東茨城二郡内に新患五頭靜岡縣は去月十
九日より同二十五日迄君津田方縣東三郡内に新患九頭
○傳染馬病 茨城縣馬の皮疽病は去月八日より同二十
三日まで鹿嶋東茨城二郡内に新患五頭靜岡縣は去月十
九日より同二十五日迄君津田方縣東三郡内に新患九頭
○傳染馬病 茨城縣馬の皮疽病は去月八日より同二十
三日まで鹿嶋東茨城二郡内に新患五頭靜岡縣は去月十
九日より同二十五日迄君津田方縣東三郡内に新患九頭

夢未だ全く醒めずして猶ほ濃睡無の間に徘徊し唯昔
しの年貢が今の租税と改まらず昔しの庄屋が今の戸長と
替りたるを知るのみ今この古人民に向て自治の事を談
しれば彼等は如何なる感覺をなすべしや唯その意外
の新奇に驚くの外ならん其驚き漸く定まり、所謂自
治なるものは町村内の事を其町村内の者共が勝手に始
末するの故にして昔しの庄屋、名主、村役様の者も出來
、町村中の物議、口利と相談して事を取扱ふものなりと
聞き扱は町村自治なるものは封建時代の町村内の取
扱めと蓋して變りたれどもなれども早呑込み合點
して始末を安心することなく而して其安心の結果は
如何と云ふに古來會て私權なきの考なき仙源の人民が
唯其形ちの舊時の有様に立返りたるを喜ぶのみにして
所謂地方自治なる者は矢張封建時代庄屋政治の昔しに
還元せらるるの奇觀なるべしや昔年會て或る地方に
ては一材の利害に關係する事に就き村内一同の連署を
以て請願書を縣廳に差出したる事あり掛官は之を請取
りて其印形を檢査するに幾十名の姓名の下に唯數個
の印形を縦横上下に位置を替へ捺印したる者なりけれ
ば大に驚き人民と召んで之を詰りたるに同村にては像
てより村中諸々の印形を戸長は手許に預け置くの習慣
あるより斯る事の出來たるを分り掛官は其不心得を
詰りたるに印形なる者元來庄屋の手許に預け置くべ
き者と心得居るに扱ては左様のもれなるかとて人民
に却て其説諭の奇あるに驚きたりと云ふ是れは十數年
前或る地方の實事談なるが今日に於ても亦併隣の地に
は尙や其流なきを期を可らず斯る質朴簡易なる人民に
町村の自治を任したりとせば其結果の完美なるも西
洋諸國に行はるる自治の制度の如くなるを得べきや我
輩の甚だ不安心に思ふ所なり蓋し西洋諸國にて自治制
度の發達は人民が其私權を守るの精神より起りてその
由來する所久しく始めて今日の完全、鞏固を致したる
ものにして自治の制度の人民が其私權を守るの精神、
旺盛ある處にして始めて其完美を見る可きのみ今日の
日本の政治上交際上の外部に於ては著るし進歩を見
るべしと雖も人々私權を守るの精神は至て薄弱にして
質朴簡易なる人民の寧ろ文明の繁文を厭ふて其私權を
固むるの有様なる其處に如何も立派ある自治の制度
を施したればとて其結果の完美なるものを見ん事煩
る困難の事にして我輩の其法の精神に於ては毫も間然
する所なきのみならず一日も早く其實行を見んことと
欲するものなれども又顧みて人民の情態を察すれば無
慮氏の民に向て刑名の事を講ずるが如き觀なきやと紛
かふ心配する者あり

り云ふ(鞍馬縣報告)
○鞍馬山噴火續報 宮崎縣及鹿兒島縣の間に特立する
霧島山噴火續報の景況は曩も本欄に掲載せしが其後未
だ鎮靜に至らず一晝夜三四回乃至五六回つし時を隔
て鳴動し噴煙常に天を蔽へり去月二十一日には飛灰
山下四五里内の村落に降下し同日午後九時二十五分鳴
動最も烈しく凡そ十分間を繼續し屋宇も爲り震動せり
(宮崎縣報告)
○天然痘 香港天然痘の流行の尙未だ熄まず去月四
日より同十一日に至る一週間に該病のため死亡せし
者四十一名の多きに達しよりと在港領事館より通報
ありたり(外務省報告)

○露國無黨の事 露國に於ける無黨の事に付ては
外國新聞の報する所其他同國漫遊者等の話す所兎角區
々にして或の該黨の政府に對する様は實に危險至極の
者なりと云ふ或の實際露國に行きて見れば決して新聞
の報する如き事なしと云ふ人依り又又見る所又從ひ各
を異なりて何れも果して信なるか誠定め難き場合な
きにあらざれども其實際は先づ平和なりと云ふ方の話
し多きもの、如し今又又近頃歐洲と漫遊して歸りし人
の話を聞くに最初此人が日耳曼より露國へ行く前には
受人の露國の事情を説いて同國憲兵の取扱ひは斯く殘
酷なり荷物は變る隙なく一々調らる事あり云々と如
何にも危邦に入り入るべからざるの考を起し程に思はし
ひれども信なき露國の境に入りてよりセントピートル
スホルクに達するまでの其間は渺茫たる曠野のみにし
て更なる物の目に觸る、なく餘りの事に何となく悲しき
感覺を惹起し成程日耳曼にての話は誠ならん此れは因
りし事を爲したりと思ふ程なり然るに以前は右の如く
嚴密なる調と爲したるも今日露國が政略上より日本
人に對しては殊更に其待遇を改めしものうは知れされ
ども意外に慈愍ある待遇を爲し又た無黨の舉動とて
も決して左程八釜敷ものにはあらざるよし然るに何故
に斯く外國新聞などが八釜敷書き立るるや尋ねるに元
來露國の其國大にして民多く風に世界を併せんとす
る考を抱き居ると云ふ殊に同國は歐洲中獨り風俗習慣を
異にし其民は亂暴にして無智なり且其文明の度を云へ
ば遂に他國に下り彼是の事より諸國が露國を嫌ふの情
遂に發して同國の事とし云へば恐ろし様に評するの意味
なれに非ずと何れが果して信あるか判じ難し去りあが
ら同國人民の貧困にして眼も當てられぬ程なるの一事
に至りては誰れ人も實に驚く所なりと云ふ

○入院患者 露國政府が本國より海峽諸島に至
るまでカイベリヤの免渡たる處を精査して、露國東
部計畫ありとの事は屢々本紙上に掲載せし所あるが今
露國新聞を見るに曰く露國が露國上の目的を以て露海
より太平洋の濱即ち滿洲斯德まで一大鐵道と敷設する
の計畫の綱
季津海氷結
感する事少
るが故に同
他に太平洋
つて鐵道敷
距離の鐵道
下同國政府
合を以て露
急速仕上
して攻守軍
上の點に於
露國は日
軍用品を
同八年中
政府の大
露國の此因
曉には海
にして動
の要へを
事を得べ
てはオ
軍の人民
一層鐵道
其好の
兎に角亞
少なから
○支那人
なるが今
るもの
十年には
六年を過
上りり乃
兎降て千
割合は敢
りし同四
超過せし
算に依れ
比増殖百
らざるも
たり

○久留契造 露國政府が本國より海峽諸島に至
るまでカイベリヤの免渡たる處を精査して、露國東
部計畫ありとの事は屢々本紙上に掲載せし所あるが今
露國新聞を見るに曰く露國が露國上の目的を以て露海
より太平洋の濱即ち滿洲斯德まで一大鐵道と敷設する
の計畫の綱
季津海氷結
感する事少
るが故に同
他に太平洋
つて鐵道敷
距離の鐵道
下同國政府
合を以て露
急速仕上
して攻守軍
上の點に於
露國は日
軍用品を
同八年中
政府の大
露國の此因
曉には海
にして動
の要へを
事を得べ
てはオ
軍の人民
一層鐵道
其好の
兎に角亞
少なから
○支那人
なるが今
るもの
十年には
六年を過
上りり乃
兎降て千
割合は敢
りし同四
超過せし
算に依れ
比増殖百
らざるも
たり

彭氏外科各論 卷之十五 定價金四十錢 卷之十六 定價金四十錢

諸會社株券 古金銀

久留契造 三月七日